

日本学術会議 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会
第 25 期・第 4 回議事要旨

日時： 令和 4 年 1 月 6 日（木） 10:00-11:30

場所： Zoom による遠隔会議

出席者：西弘嗣，古谷研（以上会員，五十音順），植松光夫，沖野郷子，窪川かおる，白山義久，新野宏，花輪公雄，原田尚美，日比谷紀之，益田晴恵，山形俊男，渡邊良朗（以上連携会員，五十音順），青山道夫，野村大樹，（以上特任連携会員，五十音順）

欠席者：川口慎介，齋藤文紀，張勁（以上連携会員，五十音順），升本順夫（特任連携会員）

議題

0. 第 3 回議事録確認

報告事項

1. 提言等の改訂について
2. SCOR Annual Meeting 2021 (10 月 26,27,28 日)について
3. 東京大学大気海洋研究所学術研究船共同利用運営委員会の委員推薦について
4. 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022)連絡会議について
5. その他

審議事項

1. SCOR 分科会としての意思の表出について

配布資料

資料 1 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会（第 25 期・第 3 回）議事要旨

資料 2 科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについて（案）

資料 3 SCOR Annual Meeting 2021 報告

資料 4 東京大学大気海洋研究所学術研究船共同利用運営委員会

資料 5 IYBSSD2022

資料 6 小谷元子先生・白波瀬佐和子先生と国際ユニオンとの懇談会

議事

1. 前回議事要旨案(資料 1)を確認し，承認された。
2. 原田委員長から，資料 2 に基づき，日本学術会議幹事会が 12 月に発出した「科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについて(案)」の骨子の説明があった。「提言」は，科学的知見に基づき総合的・俯瞰的な見地から，学術会議全体として社会に向けて意志の表出を行うものと再定義する。新しく「見解」という意志の表出のカテゴリーを設け，部・委員会・分科会等からの提案や意見を提示するものとする。「見解」の提出には事前に仮題，確認事

項、骨子について地球惑星科学委員会と相談調整が必要となる。

3. 原田委員長、張委員、日比谷委員が 10 月 26-28 日に行われた SCOR Annual Meeting 2021 に出席した。原田委員長から、資料 3 に基づき、議事について以下の報告があった。予算状況を鑑み、新規の SCOR ワーキンググループの採択は 3 件、日本が推薦した 2 件はこれに含まれる。また、採択された 3 件いずれにも、日本からの full/associate のメンバーが含まれる。
4. 原田委員長から、SCOR 分科会の任務である、東京大学大気海洋研究所学術研究船共同利用運営委員会委員の推薦について、正副委員長および幹事でメール審議を行い、資料 4 の通り 6 名を推薦した旨の報告があった。SCOR 分科会がこの推薦を任務とする歴史的経緯について、山形委員から説明があった。関連して、海洋科学全体を所掌する当分科会の意義をアピールするために、分科会名称に日本語名を併記できないかについて、地球惑星科学委員会委員長に打診することとした。
5. 西委員および原田委員長から、資料 5 に基づき、「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022)連絡会議の報告があった。連絡会議立ち上げの WG には西委員が代表として参加する。当面の課題は、IYBSSD の周知である。Development を「開発」ではなく「発展」と訳することについて、白山委員から、基礎科学との親和性を鑑み「発展」となった旨の説明があった。
6. 原田委員長から、資料 6 に基づき、小谷元子先生・白波瀬佐和子先生と国際ユニオンとの懇談会について報告があった。
7. その他の報告として、沖野委員から、学術研究船白鳳丸の大規模改修が終了し試験・慣熟訓練中である旨の報告があり、前期分科会でのシンポジウム開催等を通じた支援に謝意が表された。
8. SCOR 分科会としての意志の表出を行うかどうかについて、意見交換を行った。国連海洋科学の 10 年にあたることでもあり、日本の海洋科学の重要課題や危機についての見解を提出することを検討することとなった。海洋科学の分野横断的性格をアピールするため、他の委員会・分科会等との共同提言を念頭に置く。具体的内容については、分科会内でメールにより意見聴取をしたあとで、執行部で骨格を検討する。

以上